

静岡市中山間地域における農業活性化 ～「一社一村しずおか運動」に連結する 農業環境教育プロジェクト～

現代GP平成19年度～21年度
テーマ：地域活性化への貢献(地元型)
静岡大学農学部
逢坂興宏・竹之内裕文

取り組みの概要

静岡市梅ヶ島大代地区



SBSテレビタカニュース2007年5月8日放送

取り組みの概要

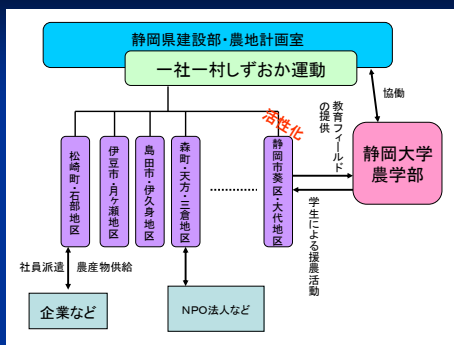


図1 一社一村しずおか運動と静岡大学農学部の関係

取り組みの概要

大学としては、大代地区を農業・環境保全教育のための農村体験フィールドとして活用し、過疎村におけるさまざまな問題を広い視野で捉えることができる「(農業)環境リーダー」の育成を目指します。

学生は地区住民を講師とする炉ばた環境ゼミと農村体験の中から地区における課題を見出し、大学教員、地区住民と一体となって解決策を模索していきます。このように、「一社一村しずおか運動」に連結する「農業環境教育プロジェクト」は、行政、地区住民、学生、大学それぞれに利益をもたらす取組といえます。

取り組みの内容

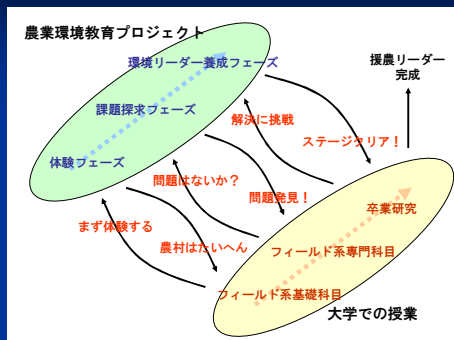


図3 農業環境教育プロジェクトにおける3つのフェーズ

取り組みの内容

I 体験フェーズ

1年目は大代地区で年間6回の農村体験(うち4回は1泊2日で、農家に宿泊する)を行います。

II 課題探求フェーズ

2年目は農作業の手伝いを継続しながら、一方で学生5～6名と地区住民とでチームを作り、地区の具体的な問題点とその解決法を考えていきます。

III 環境リーダー養成フェーズ

I、IIのフェーズを終了した3年目の学生は、農村体験コーディネーターの役割をします。コーディネーターはI、IIのフェーズの学生にアドバイスをしたり、地域住民とのコミュニケーションの手助けをすることでコーディネーターの資質を磨いていきます。また、IIのフェーズで問題解決のために自らが提案した解決策に実際に取り組みます。この3つ目のフェーズでしっかりと学んだ学生は、この大代地区だけでなく、他で同じような問題を抱えている地区についても、それぞれの問題にどのようにあたるべきかを考えていくことができるようになります。

取り組みの実施計画

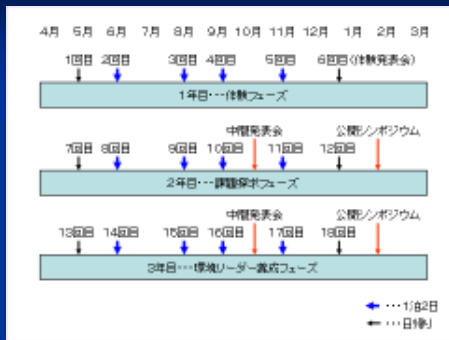


図2 農業環境教育プロジェクトにおける大代地区訪問日程

活動の記録

<学生体験訪問>

- 第1回目 4月28日(土), 学生34人, 教職員9人
- 第2回目 6月9-10日, 16-17日, 学生58人日, 教員14人日
- 第3回目 8月1-2日, 18-25日, 学生72人日, 教員19人日
- 第4回目 9月8-9日, 15-16日, 学生42人日, 教員12人日
- 第5回目 11月10-11日, 12月1-2日, 学生54人, 教員12人
- 第6回目 12月15日(土), 学生21人, 教員8人

<学生・教職員・地区住民の交流>

- 10月1日, 学生懇談会, 学生27人, 教員5人
- 10月5日, 大代地区情報交換会, 教職員13人
- 11月17日, 大学祭(農祭)で出店
- 大代に訪れた人数(延べ), 学生283人日, 教職員87人日

第1回実施状況(4月28日)



第1回記念撮影(4月28日)



第2回実施状況(6月16-17日)



第3回実施状況(8月18-25日)



第5回実施状況(11月10-11日)



静大祭(農祭)(11月17日)



第6回体験訪問発表会(12月15日)

